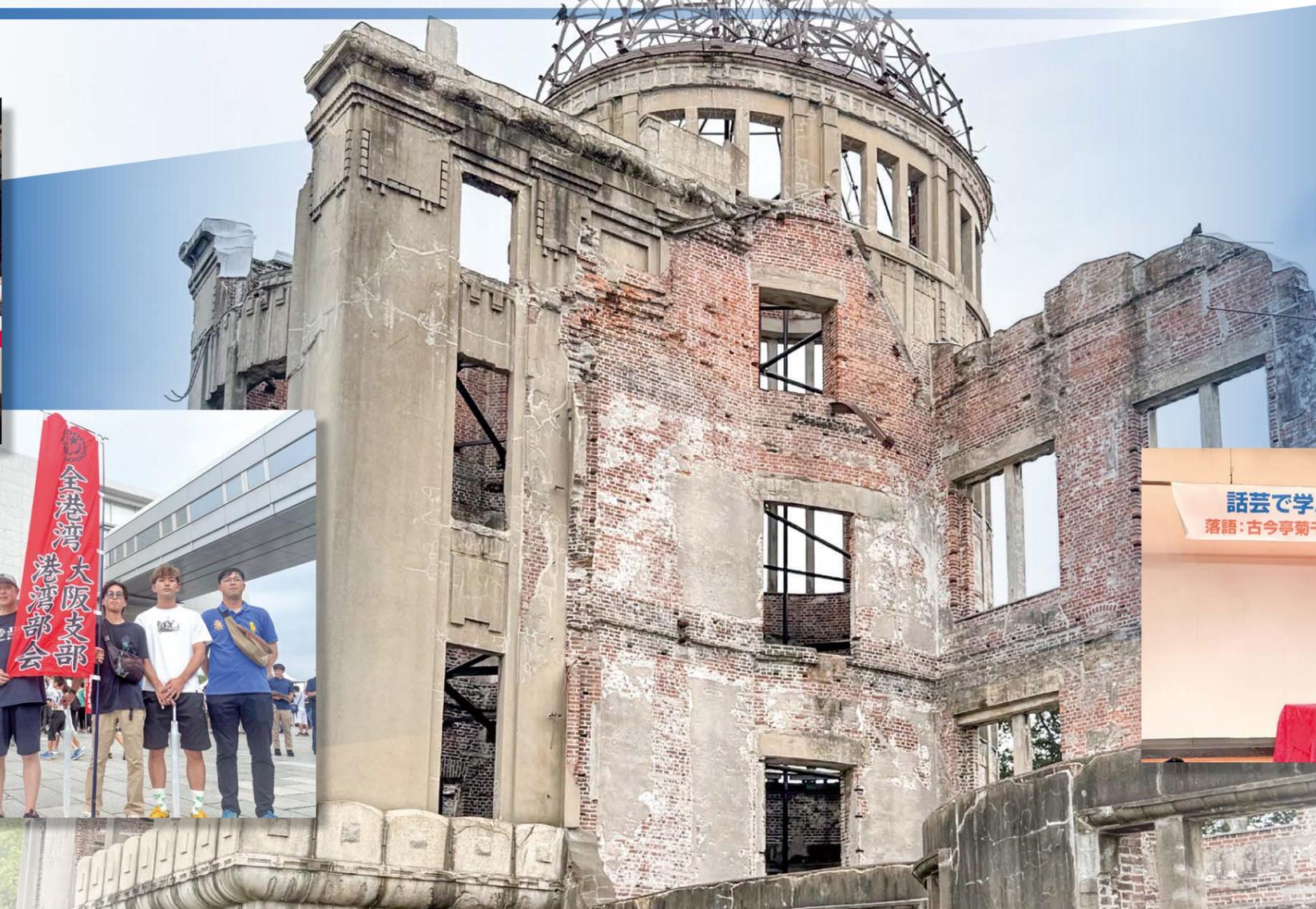


被爆80周年原水禁世界大会



8月4日～6日、被爆80周年原水禁世界大会・広島大会に参加しました。

開会総会では約2,200名もの仲間が全国各地から結集し、そのなかには境港支部の仲間も結集していました。折鶴平和行進では大勢の仲間と広島市内を行進しました。開会総会では箕牧智之氏の被爆体験やノーベル平和賞を受賞するまでの活動報告があり、分科会では「話芸で学ぶ」をテーマに講師の田辺一乃さんがピキニ環礁での第5福竜丸被爆談話や、落語家の古今亭菊千代さんの禁演落語など、日本の戦中戦後の世情をわかりやすく話されていました。私はこれらの話を聞き、被爆体験そのものが核使用抑止になり、核兵器廃止に繋がっていくものだと感じました。大阪支部でも平和運動をおこなう上で反戦平和をはじめ、非核三原則や原発問題について学ぶ機会がたくさんあります。今回、原水禁世界大会・広島大会に参加し、原爆の強烈な衝撃に耐え、その姿を現代に残す原爆ドームをみて、そして、被爆者やその家族の方々の体験談を聞き、これに勝る学習の機会はないと感じました。今後もこの活動を継続し、たくさんの組合員がこういった機会に携わっていけるような運動にしていければと思います。



7月26日に行われた被爆80周年原水禁 福島大会に参加してきました。

原爆事故から80年を迎え、今だに世界では終わりの見えないロシア・ウクライナ戦争、アメリカによるイランの核施設攻撃等が起きている中で核が使用されています。講師の金子哲夫さんの原水禁運動の原点とこれまでの運動についての講義を聞き、福島で起きた東京電力福島第1原発の事故があったのにも関わらず日本では原子力発電を再稼働に向けて動いているのが現状です。その中で金子さんが話されていたのは原爆事故で被害に遭い被爆してしまった方の実相、核と人類は共存できないという思いを胸に諦めずに声を上げ続けることを訴えていました。私達、全港湾でも平和運動・福島連隊キャラバンという運動を、世界から戦争や、そして原発がなくなるまでこの活動は続けていかなければいけないと強く感じました。そしてもっとも若者が積極的に集会やデモに参加し、活動していかなければいけないと思いました。

全港湾小名浜支部青年部 松村 海斗



— 被爆80周年原水爆禁止世界大会・長崎大会 閉会行事 — 核も戦争もない平和な21世紀に!



被爆80周年原水爆禁止世界大会 長崎大会に参加して。

8月7日～9日にかけて、「被爆80周年原水爆禁止世界大会・長崎大会」が同大会の実行委員会の主催で開催されました。7日の開会行事は冒頭、高校生平和大使 OP で現在大学生の皆さんによるトークセッションが行われました。自らの活動経験を踏まえつつ、核廃絶と平和の実現に向けた思いを率直に語り合いながら、これからの活動の展望を共有しました。広島・長崎をはじめとするすべての核被害者、そしてすべての戦争被害者への黙とうを、再び過ちを繰り返さない決意を含め、捧げました。8日は「平和と軍縮Ⅱ 日本国内の動き」に参加し、「戦争できる国づくり」から「戦争する国」へと、日本政府による軍備拡張が進められていること、戦後80年を迎えた今日、沖縄・九州・南西諸島のみならず日本全土を巻き込んだ基地機能強化が進み、その先に改憲を実現し、先の戦争の反省を基に築き上げてきた「平和主義」の方針転換をはかろうと目論む勢力があることを学びました。最終日の9日には、核使用の危機が高まる世界情勢を踏まえつつ、「核抑止」の虚構性を指摘され、核廃絶に向けともがなを捧げました。最後に「大会アピール」を全体で確認し、集会を終了しました。爆心地公園では、11時2分には雨も上がり、多くの人びととともに長崎の、広島原爆犠牲者、そしてすべての核被害者の皆さんに黙とうを捧げました。今回の大会には、中央本部1名、九州地本2名、長崎県支部19名、各地方からのオブ参加5名、総数27名が参加しました。

福島

